

【授業科目】人間発達学

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー	教職員への授業公開
杉崎 一美、橋爪永子	1年次前期	選択	1	15	講義	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)	<p>授業概要／人間発達学におけるエリクソン、ボウルビィ、ピアジェ、レビンソンなどの主な発達理論を学習し、人間が生涯発達し続けるという意味を学ぶ。そして、人間を発達という視点から理解し、各段階におけるライフサイクルと身体的・心理社会的側面の特徴を学び、発達段階における健康問題や看護援助について考える。</p> <p>課題に対するフィードバック方法：レポート・リフレクションペーパーなどについて、適宜、授業等でコメントする。</p>						
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>						
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>① 人間発達学の定義、関連用語を知り、人間発達学の意義を説明できる。</p> <p>② 発達理論の歴史とその変遷を知り、発達理論を説明できる。</p> <p>③ 胎児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期におけるライフサイクルの形態・機能的側面と心理・社会的側面とを理解し、各段階における発達の特徴を説明できる。</p> <p>④ 人間発達の視点から各段階における健康問題や支援について説明できる。</p>						
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>第1回～8回事前学習：各回に関係する文献を読んでおく。(各30分)</p> <p>第1回～8回事後学習：授業で学んだことから関係する文献を読み、必要に応じて学びのレポートとして課題を課す。(各30分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>						
授業計画	<p>第1回 人間と発達、発達理論とその歴史</p> <p>第2回 胎児期・乳児期の心と身体</p> <p>第3回 幼児期の心と身体</p> <p>第4回 学童期の心と身体 ディスカッション</p> <p>第5回 思春期の心と身体</p> <p>第6回 青年期の心と身体</p> <p>第7回 成人期の心と身体 ディスカッション</p> <p>第8回 老年期の心と身体</p>						<p>杉崎</p> <p>橋爪</p> <p>橋爪</p> <p>橋爪</p> <p>杉崎</p> <p>杉崎</p> <p>杉崎</p> <p>杉崎</p>
評価方法 評価基準	<p>定期試験 90%、レポートなど 10%で総合的に評価する。</p>						
教科書	舟島なをみ「看護のための人間発達学」第5版 医学書院	参考書等	講義の中で興味深い本を紹介する。				
学生へのメッセージ	<p>人間に興味をもち、発達という理論を学んでほしい。そのためには多くの文献を読み、探求する学修をしてください。</p>						